

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム青い鳥
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市古江町796番地3
記入者名 (管理者)	飯屋 蘭 祐子
記入日	平成21年9月3日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中で人と人とのふれあいをもとに、生き甲斐のある毎日を送る。又、楽しい時間を過ごせるように理念を作り上げている。</p>	<p>地域の一員として、なれない環境の中でもその人らしい個性を活かし、安心して暮らせるよう支援していきます。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は1人ひとりの機能低下予防の為に個別ケアプランを掲示し毎日筋力強化に励んでいる。「生き甲斐のある毎日を送る為に」個別ケアを継続し筋力強化を図れるよう、利用者、管理者、職員で意見交換しあっている。個別ケアが達成できた時は、カレンダーに印をして達成感を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム内で行う地域の方々との交流会への参加、又運営推進会議の構成員を通して、少しずつであるが理念が浸透している。地域の行事に参加した時やホームで交流会を開いた際など、これまで以上に気軽に立ち寄って頂ける様、参加者や地域の方々へ呼びかけている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホーム周辺を散歩するときなど気軽に声をかけて頂いている。又、近所の方々も気軽に立ち寄ってくださる。近所で緊急を要する出来事が発生した場合は協力を求めて来られる事もあり対応している。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>外部からホームに来ていただく機会は多いが、ホームから地域活動に参加する事はあまり出来なかった。</p>	<p>町内会、学校、保育園等催しがあるときは連絡をいただけるように挨拶まわりを行う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々に交流会への参加を呼びかけ、参加者と共にリズム体操やゲーム、食事を楽しんでいる。又、参加者が自宅生活で不安に感じていること等を聞き対応できることは情報提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員外部評価の意義を理解し、より質の高いサービス提供が出来るよう常に話しあっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し入所者の状況を報告、サービスの状況、余暇活動報告を行い、あがった意見を検討し、サービス満足度を高めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	判断に困ったときなど市に相談し誤った判断をする事がないように密に連携をとっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解する為勉強会を開き、権利擁護の対象となる方が出てきた際は速やかに対応できるよう、入所者のキーパーソンと話し合い必要に応じて対応できるよう整備していく。		権利擁護において定期的に勉強会をする事で必要時適切に対応できる。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内において虐待が見過ごされることのないように職員間で情報交換を行い、虐待の引き金となりそうなことがあれば職員で話し合い対応のあり方を考える。日々の業務の中でどんな些細なことでも職員間で話し合い徹底して虐待が起きないように注意している。又虐待防止研修ビデオで意識改革を図り、レポート提出している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に時間をかけて契約説明を行い理解していただき、疑問や不明点はないか確認している。病的なリスクの高い方においては責任を負いかねない事項を契約書に入れ、納得いただいた上でサインをもらっている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所者の意見や苦情、不満を言いやすいよう家庭的雰囲気を作りコミュニケーションを図っている。入所者にはそれぞれ話しやすい職員がいるので、職員はときどき入所者に対し、言いたいことはなにもないか、不満はないか聞いている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度利用料金の支払いに来られた時や、遠方の家族には領収書送付の際手紙にて状況を報告している。緊急の際は電話にて伝える。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から管理者や職員に対して意見や苦情を言いやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望を組みとるようにしている。内容の詳細は伝達ノートに記載して職員で改善に向けて話し合っている。居室にお通した際、聞くようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会で、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、利用者1人ひとりに応じたケアを実践している。職員からの意見や提案をもとに、利用者に必要な支援やより良いグループホームの運営が出来るようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務シフト上は、ほぼ無理のないように工夫はしている。又、利用者の希望されるお寺参拝や行事等、必要に応じて勤務を4人体制にする等調整している。利用者の身体状況に合わせて見守り強化したり、受診が必要であれば無理なく対応できるよう増員し調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の入れ替えがある場合は繰り返し説明して利用者へのダメージを防いでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加してもらい、研修報告書を提出させ、全職員にコピーを配布している。それを月例会の際、本人より報告させて共に学んでいき、ホームに必要と思えることは取り込んでいる。経験年数に合わせて、適当と思える研修に参加させ、レポート提出させ発表してもらっている。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに研修に行かせどのような活動を行い、職員はどんな取り組みをしているか勉強しレポート提出させている。又、職員は研修に参加した際、その職員との交流を図り情報交換し業務意識の向上に努めている。同グループホームに研修に行かせ業務意識を高めている。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	全職員の希望を組んで勤務表を作成する事で、ストレス解消を図っている。又、業務についても苦手な作業は楽しみながら徐々に改善していけるように工夫している。ストレスと感じる苦手な作業は無理強いせず、他の職員を参考にしながら少しずつ苦手意識を改善し、やがては全職員がそれをストレスと感じないように取り組んでいる。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も職員と共に業務に従事し、職員との交流を図ったり、意見を聴き不満解決に取り組んでいる。又、職員のいい部分を褒め向上心を持てるように努めている。職員と話す機会を設けるようにしている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所当初は生活が一変する事に戸惑いがあり、混乱されるので、不安解消のため、全職員が話しかけたり、話をよく聞き、落ち着けるように配慮している。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に家族から生活歴や、困っていること等を聞き、今後ホームでの生活がどのようにあればいいか、気軽に話し合えるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞く。又、今まで関わってきた方からの情報を元に必要なサービスを検討対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にホームに来ていただいたり、来れない場合はこちらから出向き顔なじみの関係を作っておくようにしている。又、職員や他の利用者に抵抗なく馴染んでいけるよう配慮し、家族等にも協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が出来ることは行って頂いたり、職員が分からないことがあれば、利用者に尋ね意見を仰いでいる。リズム体操やレクリエーションは笑いながら楽しく行っている。旬の野菜を使った料理の方法が分からない時、昔のことわざ等職員がわからない時は、利用者に聞くと、それぞれいろんな話が出て和やかな雰囲気になる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者に何か問題が起きたら家族に相談し一緒に考え解決している。来所された際は生活状況を伝え、本人に声掛けしていただいている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来所された際は生活状況を報告したうえで、声掛けしてもらっている。遠方の家族には電話や手紙にて生活状況を伝え本人との距離を感じさせないように配慮している。管理者は、簡単ではあるが近況を伝える手紙を毎月書く。本人にも自由に手紙を書いていただき同封している。書きたくないと言われた場合は、管理者がメッセージを代筆している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られた際、世間情報を伝えていただいたり、又、来ていただけるように声掛けする。会話の中に頻りに個人名や地名が出てきたら家族に伝え、面会に来ていただいたり、外泊の際連れて行ってもらう。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活ではあるが、1人を好まれる方には無理強いしないで居室にてそれぞれの生活を楽しんでもらっている。共通の時間を過ごす場合は利用者同士の関わりあいがあるので、関係が円滑になるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移動された場合等、こちらから面会している。その職員から生活状況を聞いたり伝えたりして本人が快適に暮らせるように見守っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の意向の把握に努めている。意思疎通の可能な方は「自分でお金の管理はしたい」等の要望に答えそれぞれ本人に任せ対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴や趣味、性格について情報を得、今まで通り馴染みの暮らしが出来るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活習慣や過ごし方は他の利用者に迷惑にならない限り入所後も継続できるように配慮している。又、できることは手伝っていただき生活にメリハリをつけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向を踏まえ、グループホームで生活するにあたり、その人らしく生活できる為の対応について職員の意見を参考に介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しをしており、期間以外においても、日々の生活の中で、新たな課題やニーズがずれていないか見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを作成しておりその人の1日の食事摂取量や排泄状況、バイタルチェック、服薬の有無、ケア記録を記載し情報の共有に努めている。又、記録を元に介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診において、家族での対応が困難な際は、送迎を行い、主治医に状況を説明している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア消防署とは必要に応じ交流の機会を設けている。特にホームでの行事や地域の行事には必要に応じた協力をいただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	半年前までは市より、鍼灸治療の負担減額用チケットを利用していたが、現在は利用していない。褥瘡予防の為にマットレスのサービスを受けていた。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホームの職員の質の向上の為に包括支援センターに協力を依頼し会場確保や資料等作成していただき研修をしている。地域で孤立している方の情報があれば支援センターに相談している。		今後さらに包括支援センターとの連携を強化し地域に引きこもり高齢者がいないように地域高齢者の生活状況把握に努めていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方1人ひとりの病状に合せた治療や薬の処方が出るように専門医療機関を紹介し、受診する事で改善が見られたこともあった。本人、家族の意向も組み、医師との連携を図っている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者一人ひとりの病状に合わせて、必要な医療機関を受診できるように支援している。又、主治医には日常の変化等、詳細を伝えている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームに看護師が勤務している為、入所者をよく把握している。看護師が休みの時等変化があれば、勤務日にその状況を伝え、健康上のアドバイスをもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は施設での介護や本人の行動等、要約した記録を作成し、入院先に情報提供している。又面会して回復具合を確認し看護師や医師に退院予定や状況を聞いている。退院が近い場合は退院後の注意点等把握するようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	単独施設であり重度化した際の対応が困難な為、特別養護老人ホームや老人施設を協力機関として提携している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	単独施設であり重度化した際の対応が困難な為、特別養護老人ホームや老人施設を協力機関として提携している。内1名は重症化した場合、病院には運ばず終末期は自宅へと話し合いが付き、対応のあり方を家族、主治医と話し合っている。又職員はそれを理解している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時、利用者のダメージを最小限に抑えようと努力するが家族の要望で当日急に退所の申出があり十分な対応が出来なかったことが2ケースあった。他の施設に移動される場合や自宅に帰られる場合はホームでの生活状況や体調管理等の注意点について書面で申し送りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>管理者や職員は日々のケアの中で利用者への言葉使いや職員間の会話に配慮するように心がけている。又、記録や個人情報についても守秘義務を守っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>食事に対する要望や、外出に関する要望を気軽に伝えられるよう、職員から働きかけている。本人の希望を少しでも叶えられるよう必要な助言をしながら、自己決定できるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人一人のペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援が出来るよう努力している。</p>	<p>その人らしい暮らしが出来、本人の希望を叶えていけるように利用者の都合に合わせた支援を行っていく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>自分で身だしなみを整えられる方は自分で行い、出来ない方にはスタッフが一緒に洋服を選び、みだしなみを整えている。散髪に関しては美容師に来ていただき本人の希望を聞きながらカットしている。入所前に行っていた美容室に家族が連れて行くケースもある。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者に働きかけ、食堂にて食材の下ごしらえ等手伝いをいただいている。又、ソファにて新聞をひろげ、野菜の皮むき等手伝っていただいている。野菜の皮むき等下ごしらえを職員と共に行っている。ある材料を入所者に伝えそれで何を作ればいいのか相談することもある。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者個人個人の嗜好にあわせ飲み物、おやつ等日常的に楽しめるようにしている。</p>	<p>温かいお茶、冷たいお茶、牛乳、ヤクルトや、手作り菓子、せんべい等好みの品をお出しし楽しんでもらっている。おやつ以外の時間以外、入浴後やほしがられる時間にお出しする。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗があった際は他の利用者に悟られないよう速やかにトイレか、風呂場へ移動し洗浄かシャワーにて清潔にする。又、一人一人の排泄の習慣を観察し自然排泄に心がけている。トイレの清潔に関しては8時、11時30分、14時、16時30分、そして汚染時とこまめに掃除し、窓を開け清潔な空間を保っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午前中に入浴時間をもうけており1日おきとなっているが、希望者は毎日入浴し楽しんでいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はホールのソファにて過ごされることが多いが、居室にて休まれることもある。その際室温を調整しゆっくり休めるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴、習慣、趣味を理解しそれを生かした楽しみを支援している。趣味で草取り、散歩、歌を歌う等、それぞれ満足できるように支援している。中でも散歩はいい空気が吸えて生きがいだと言われる為、毎日出かけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により自分で金銭管理される。買い物の希望があれば職員が購入したり、共に買い物に行く場合もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と共に毎日散歩に出かける。又家族に連絡し墓参りや外食に誘い出してもらっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者と職員でドライブしたり、公園、花見、みかん狩り、ぶどう狩り等に出かけたり家族に依頼し墓参り、外食に出かけられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいと言われたときや、家族のことを繰り返し言われる場合は電話をかけ話をさせていただいている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた方々に対し、ゆっくりと落ち着いて話が出るように居室に通し室温を調整し、飲み物をお出しする。その面会者に対し必要と思える情報のみを提供し、生活状態をお伝えする。次回の面会も願います。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鹿屋市の研修会で使用した身体拘束に関するビデオを県から借り、すべての職員に身体拘束を理解させ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		身体拘束における勉強会を行い、振り返る機会を設けることで、現状に満足する事なく、全職員が意識して、身体拘束をしないケアに取り組んでいく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間においては職員が1人しかいないこともあり、玄関には鍵をかけるが日中はかけない。新しく入所者が入られた際、生活行動パターンの把握が出来るまで鍵をかける場合もある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホール担当の職員が居室とホールの利用者を見守っている。夜間は全部を見渡せる廊下に、机を置き記録等を行い、定期的に巡視し安全に配慮している。机上に置いたファイルにはカバーをかけプライバシー保護している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入所された際、所持品を確認し、はさみや針等危険と思えるものはこちらでお預かりする。裁縫をされる場合は、職員がそばにいて終了したら、又、預かっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の可能性の高い方については目を離さない、立ち上がりが見られたらすぐ駆けつける。(レポート提出)誤嚥については、その方の飲み込み状態に合わせ、柔らかく煮たり、刻んだりして介助する。食事やおやつ時間は見守りしている。火災を防ぐ為には調理人は火元を離れず、責任を持って火元の管理を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者一人ひとりについて急変の可能性を話し合い、毎月の職員会で事故発生時に備え、シュミレーションを行っている。マニュアル緊急連絡網も作成している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は3ヶ月に1回程度避難訓練を行い、すべての災害に備え、ホーム周辺の方々に避難の援助をお願いしている。又、地域の消防分団にホームの出入り口、非常口を示した図面も渡し緊急時のお願いをしている。昼夜問わず災害対策として避難できるように訓練し、マニュアルを見直したりしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの病状等を踏まえ、起こり得るリスクについて主治医の意見をあおぎ職員、家族で共有した上で対応策を検討し、安心して生活できるように支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、異変の早期発見をすると共に、病院受診を行うなど柔軟な対応をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ひとりの個人ファイルを作成しており、薬の変更等あれば記録に残して確認してもらっている。確実な服薬支援と症状の変化に努めている。新薬が処方されることもあるので、薬説明書はファイルに閉じ効能、副作用等確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れたり、水分補給に心がけ、又、適度な運動も行っている。便秘薬を処方されている方は便の状態を確認しつつ調整している。食事、水分摂取、適度な運動を毎日心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自分で歯磨き出来る方には声掛けし、援助の必要な方には、歯磨き支援を行っている。夜間は洗剤剤につけている。毎食後の口腔ケアは継続し支援する事で、利用者全員習慣化されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重と摂取量を確認しながら量を調整したり、栄養バランスを考え偏りのない食事を提供している。おやつは好みのものを出し楽しんでいただいている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染予防に関するマニュアルを作成しておりマニュアルを元に利用者、職員、外部からの来られるかたの感染症予防・対策に備えている。職員、利用者共に、外出し帰設した際は必ず手洗い、うがいを行っている。トイレの後の手洗いの励行。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に入る前の手洗いと途中台所を離れたら手を洗う等徹底している。台所は1回の調理が終了したら乾燥機にかけ、調理台も完全に整理し次の調理人に引き継いでいる。又、食品は土の付いたものは冷蔵庫に入れず、冷蔵庫保管されている食品も賞味期間内に使うようメモで申し送りしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺に季節の花を植え、誰でも親しみやすく安心して出入りが出来るようにしたい。玄関の中には鉢物を置き癒される空間を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者にとっての生活の場なので明るく、清潔で不愉快な音等がないように工夫している。テーブルや洗面台、トイレ等には季節の花を飾り楽しんでいただいている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファは広く確保してある為、好みの席を指定席としている人もいる。みたい番組を気の合った人と一緒にみたい希望もある為自由に過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、持参され使い慣れた家具等を、希望の場所に置き、それに合わせてベッドの位置を決めている。本人の好みに模様替えしたい時はいつでも手伝い、心地よく過ごせるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、窓を開け換気している。居室からポータブルトイレを持ち出す場合、ホールを通る時はフタをして後ろ側を通っている。トイレに臭いがこもらないように窓を開け換気し、汚染していたらすぐ掃除、消毒を徹底している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全性を考慮し、肘掛椅子、安定した椅子、立ち上がりやすい高さの椅子等用意し、廊下やトイレは手すりが設置しており、安心して利用できるようになっている。浴室は滑りにくい素材を使用、手すりを設置し、浴槽には滑り止めを使っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分からない利用者がおられ、目印に工作した青い飾り物や張り紙をし、利用者が分かりやすいようにしている。食堂の席は馴染みの座布団を置きスムーズに席につけるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室の窓に苦瓜やヘチマを植え、草取り、水かけ、収穫を楽しんでいる。又、ホームの庭には畑があり季節の野菜や花が植えてありホームの中からも楽しめるようになっている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとした時間を過ごすことが出来る。それがグループホームのあり方としてスタートしたと思うのですが、予防事業の開始と共に単純に家庭の延長線という考えだけでなく、利用者個人の可能性を引き出し、筋力の低下を防ぐと共に、生き生きとした生活が送れることが大切と考えています。その為職員は、タイムリーに業務をこなさないと利用者ゆっくりとした時間を過ごせません。当ホームでは理学療法士に依頼し、継続した個別リハビリを行い、(リハビリ時間が唯一、コミュニケーションの取れる時間)目標達成できたらカレンダーに赤丸をし、利用者の達成感と、前向きな姿勢を引き出しています。又、皆で手入れし、収穫した食材を使用し、献立に盛り込んでいる為、収穫の喜びで会話が弾んでいます。家族からの差し入れも多く助かっています。